

A22c **MOA と IRSF による南天における遠方 GRB 探査計画**

西本 賢太、さこ 隆志、福井 暁彦、伊藤 好孝、阿部 文雄、増田 公明、松原 豊、住 貴宏、神谷 浩紀、永治 舞衣子、古澤 圭、三宅 範幸、保坂 俊、牧田 翔太、佐藤 修二、栗田 光樹夫(名古屋大)、村木 綏(甲南大)、大西 浩次(長野高専)、斎藤 敏治(都立産業高専)、D.P.Bennett(Nortre Dame U.)、P. C. M. Yock (Auckland U.)、I. A. Bond (Massey U.)、D.Sullivan (Victoria U.)、J. B. Hearnshaw、P. J. Tristram、P. Kilmartin (CanterburyU.)

我々MOA (Microlensing Observations in Astrophysics) グループはニュージーランドのMOA望遠鏡を用いてMACHOs探索及び系外惑星探索を行っている。

今回、MOA-II 1.8m 光学望遠鏡と名古屋大学 Z 研が所有している南アフリカ 1.4m IRSF 赤外望遠鏡の連携観測により、南天における高赤方偏移 GRB の特定を行う。GCN(Gamma-ray burst Coordination Network)からのGRB情報をMOAで受け取り、観測。特に暗い残光、残光未検出の場合は高赤方偏移候補としてIRSFへ情報を送る。それぞれの結果はGCNに送られ、高赤方偏移候補はすばる望遠鏡などで分光観測が行われる。このような連携観測によりすばる望遠鏡による分光観測候補選定、高赤方偏移 GRB の発見数増加に貢献する。同時にMOA広視野カメラと変光天体リアルタイム検出システムを利用して、位置決定精度の低いGLASTが検出するGRBの残光探索を行う。

本講演ではMOA-IRSF連携GRB観測システムの準備状況を報告する。また、MOA-II望遠鏡及び広視野カメラMOA-cam3の詳細についても報告する。